

報道関係者各位 御中

2014年7月29日発信

—生きた証を映画にする映像製作サービス開始のお知らせ—
現役の映画監督がつくってくれる自分のドキュメンタリー映画
シニア世代ターゲット 時代は「モノ消費」から「物語消費」へ

Life Cinema (<http://cinema4u.jp>) を運営する株式会社スタイルプラスブレイン(本社・東京都新宿区、代表取締役・松浦英雅)は、主にシニアを対象にした自分史映像を、現役の映画監督がドキュメンタリータッチで製作するサービスを開始しました。この自分史映像サービスは、「その人の人生の真実を描く」ことから、Life Cinema (ライフシネマ)と名付けました。(商標登録出願中)



Life Cinemaはたんなるメモリアル映像ではありません。

「すべての人生は映画である」をテーマに、映画監督がご本人の生きた証(あかし)を切り取り、ドキュメンタリー映画のようにストーリー化することで、他の自分史映像とは違う差別化を図った点が大きな特徴です。

Life Cinemaの監督陣には劇場公開の実績のある監督を初めとして、優秀な若手監督たちをネットワークしています。

Life Cinemaの製作で、ご本人には「振り返る喜び」、「ひとに語る喜び」、「カタチに残す喜び」を、そして次世代(子や孫)の方々には「祖父母の人生を知る喜び」を感じていただくことがこのサービスの最大の目的です。

<市場背景～コト消費～>シニア市場が拡大する中、「モノ消費からコト消費」への傾向は著しく、その代表例として旅行や趣味・習い事といった「体験」に消費の比重が移ってきています。そして体験することの中に、映画を作ってみたい、自分の人生を残し伝えたいというニーズが高まっています。

<終活を始めて>終活が定着し、終末医療の考え方や、葬儀・墓地のあり方などを整理し、遺品・遺産などをどうするかと考える中で、自分の人生を残し伝えたいと考える人が増えてきたためです。

<孫のために>核家族化が進み、祖父母と暮らさない家庭が増えています。そのため祖父母が亡くなってから孫は祖父母のことを知っているようで何も知らない、「色々聞いておけば良かった」と後悔する声をよく聞くようになりました。そのため「孫のために残す」という孫消費が生まれてきています。

<利用シーン>①定年退職など、シニアが第二の人生をいかに生きるかを考える節目の時、②エンディングノートを書き始めた時、③人生のパートナーを亡くされ偲ばれる時、④会社の周年や事業継承をされた時などを想定しています。

<料金体系>製作料金はわかりやすく基本パック80万円、おまかせパック140万円、プレミアムパック350万円のパック料金にしました。オプションも広く用意しています。

Life Cinemaサービス開始を記念して、2014年10月末まで各パック料金から10%の割引を実施します。

【会社概要】

社名:株式会社スタイルプラスブレイン
代表取締役:松浦英雅
設立:2004年
資本金:1000万円
業務:法人向けに映像制作を行っている。企画から構成・演出をメインに行い、撮影・CG作成・キャストティングなどをコーディネートしている。

【本件に関するお問合せ】

担当部署:ライフシネマ
tel:03-5368-8067 fax:03-5368-8069
mail:info@stylebrain.com
URL:<http://cinema4u.jp>
担当:柏木

Life Cinemaに参加する主な監督と作品

・笹木恵水(ささき めぐみ)

監督のキャラクターそのものの、柔らかく温かい空気感と絵作りが様々な映画祭において評価されている。

2014年 「ハニー・フラッパーズ」 劇場公開決定

2013年 「184からの脱却」 第8回札幌国際短編映画祭オフィシャルセレクション作品部門入選

2011年 「約束のネイロ」 小樽ショートフィルムセッション2011 最優秀賞

第7回札幌国際短編映画祭インターナショナル・コンペティション作品部門入選

・小川和也(おがわ かずや)

10年間アメリカやイタリアにてミュージックビデオや社会派キャンペーンビデオの制作を行ってきた。

2014年 「エール探偵事務所」 DVD発売

2009年 「ピンクスパル」 トリノ国際映画祭オフィシャルセレクション選出

2010年 同作劇場公開

2011年 同作ゆうばり国際ファンタスティック映画祭審査員賞・記者賞

フランス文化芸術国際映画祭ノミネート

イタリア南部サレント国際映画祭ベストフィルム部門ノミネート

・岸田浩和 (きしだ ひろかず)

東日本大震災をきっかけに被災地を取材するビデオジャーナリストとなる。ライター出身のインタビューは本質を切り取る技術に定評があり、ドキュメンタリーを中心とした映像製作を得意とする。

2012年 「缶闘記」 第6回京都国際インディーズ映画祭入選

「After 3.11」 第7回札幌国際短編映画祭インターナショナル・コンペティション作品部門入選

2010年 「台湾・議場占拠学生の生声」

・日高尚人 (ひだか なおと)

グラフィックデザイナーから映像制作を始める。ドラマティックな映像演出を得意としている。

2007年 「キャラウェイ」 劇場公開

2011年 パリ Japan Expo 2011

2012年 ドーハ・トライベッカ映画祭 ソウル環境国際映画祭 テネ国際短編映画祭 小津安二郎記念映画祭

・成富紀之 (なりとみ のりゆき)

密着型のドキュメンタリーを中心に映像制作を行っている。

長期に渡り取材対象に密着するため、本質を深掘りしていく作風を得意とする。

2012年 「ホームレス芸人 小谷」

2013年 「僕がインドに行く理由」

※参加する監督のみなさまには映画業界全体の活性化につながることを期待して、**Life Cinema**独自の監督支援プログラムを用意しております。それぞれの映画づくりに活用してもらい、その成果を**Life Cinema**にフィードバックしてもらうことが目的です。

報道関係者各位

2014年7月28日発信

今は亡き「祖父の生きた証」を孫が映像化 — 生死を共にした95歳の戦友が語る祖父と戦争 — 取材のお願い

自分史映像のLife Cinema (<http://cinema4u.jp>)を運営する㈱スタイルプラスブレイン(本社・東京都新宿区、代表取締役社長・松浦英雅)は、代表自ら祖父のLife Cinemaを製作することになり、8月8日(金)から10日(日)までの3日間、長崎県内で撮影取材を行います。製作のきっかけは、95歳の戦友の方と一緒に祖父の墓参りをし、祖父の軍隊時代の話インタビューできることになったからです。この撮影の取材をしていただきたくお願い申し上げます。



今、孫世代に祖父の生きた証として、祖父の軍歴への関心が高まっています。厚労省への問合せが前年比3割増だそうです(5.11産経ニュース)。背景には映画「永遠の0」やゲームの「艦これ」のヒットがあると推測されています。

おりしも集団的自衛権行使容認が閣議決定されました。戦争を体験された世代は複雑な思いを、戦争を知らない世代

は戸惑いを感じる事態が生じています

戦争世代の話は、孫世代にとって戦争を考えるいい機会だと思います。さらに戦後復興から高度成長期を駆け抜けた戦争世代の体験談は、今、記録に撮っておかなければ永遠に失われてしまいます。

その意味で、弊社代表の祖父のLife Cinemaは個人史の枠を超えて一つの作品になりえるものと考えています。

Life Cinemaとはたんなるメモリアル映像と違って、「すべての人生は映画である」をテーマに、現役の映画監督が自分史をドキュメンタリータッチで製作するサービスのことです。

核家族化が進み、祖父母のことを知らない孫世代が増えており、弊社代表もその一人です。

亡くなってはじめて、自分のルーツの喪失に気づき、「話を聞いておけばよかった」と悔やむ気持ちが祖父のLife Cinema製作の大きな動機になりました。もとより弊社代表は映画監督ではありませんが、インタビューを中心にしたその手法で祖父の人生の映像化に挑みます。

【撮影日程】

8月8日 佐世保市にて復員から結婚、伴侶の死までをインタビュー撮影

8月9日 佐世保市にて本人が亡くなるまでをインタビュー撮影

8月10日長崎市にて戦友と墓参り 戦友のインタビュー ※この日の取材をお願い申し上げます。

【会社概要】

社名：株式会社スタイルプラスブレイン

代表取締役：松浦英雅

設立：2004年

資本金：1000万円

業務：法人向けに映像制作を行っている。企画から構成・演出をメインにおこない、撮影・CG作成・キャスティングなどをコーディネートしている。

【本件に関するお問合せ】

担当部署：ライフシネマ

tel:03-5368-8067 fax:03-5368-8069

mail:info@stylebrain.com

URL:<http://cinema4u.jp>

担当：柏木